

西中図書だより

すっかり秋めいて、正倉院展、京都・非公開文化財特別公開が始まっています。

秋といえば、読書。読書の秋の由来として通説とされているのが、古代中国の唐時代の詩人の韓愈（かんゆ 768-824）の漢詩、灯火親しむべし（涼しくて夜が長い秋は灯火の下で読書するのに適している）が由来だとされています。新しい本も入ってきました。沢山の本を手にとってみて下さい。

10月の貸出し冊数 1年 244冊・2年 400冊・3年 252冊（学級文庫、教科貸し含む）



おすすめ本



「こころきらきら枕草子」木村耕一 一万年堂出版

笑って恋した清少納言の心構えを知れば、どんな苦しみもカラリと流せるようになるでしょう。清少納言は、美しい日本の四季を、美しいと感じることが出来る幸せな人でした。そして、根も葉もないウワサに傷ついても人間関係に悩んでも、決して恨んだり、非難したりせず、常に前向きに乗り越えてきました。千年も日本人に元気を与えてきた「枕草子」の秘密を分かりやすい意識で解き明かしていきます。



「すきなことのみつけかた」たかい よしかず 大日本図書

勉強ってしなきゃだめ？やれっていわれるから・・・
この本を読めば、勉強もきっとおもしろくなるでしょう。



「鳥獣戯画を読みとく」五味文彦 岩崎書店

日本で最初のマンガ！？どんな登場人物（動物・植物）が描かれているのか。そして、その目的とは？秘密の多い絵巻の七不思議を解明します。



「王妃の帰還」柚木麻子 実業之日本社

私立女子中学 2年生の範子は雑誌の編集長をしている母と二人で暮らしながら、気の合う仲間たちと、地味ながらも楽しく平和な学園生活を送っていました。ところがクラスである事件がおき、クラスの頂点にいる姫グループの滝沢さん（＝王妃）がグループを追われ、なりゆきで範子たちのグループに迎え入れることになり、平和なグループの調和は崩壊！範子たちは穏やかな日常を取り戻すために、ある計画を企てます。

11月の開館日

月	火	水	木	金
				2
5		7		9
12	⑬	14		16
	⑳		22	
26	㉓	28		



昼休み 13:15～13:25 ○の日は 昼休み、放課後（16:00～17:00）ともに開館しています。